



青山中央地区
インフォメーション施設



「道民の森」は自然がいっぱい

今年のイベント紹介!!

要予約 イベントの2カ月前から予約を受け付けます

予約受付・詳細 道民の森管理事務所 (☎ 2 - 3911)

ホームページ <http://www.pref.hokkaido.jp/srinmu/sr-dmmkj/mori/top.html>

イベント名	開催月日	内 容	実施場所
森の観察会	5月1日～11月3日までの土曜・日曜・祝日※夏休み期間は毎日実施。 時間 10時30分、13時30分の2回	森の仕組みや効用・楽しみ方などの解説 (5月9日～6月6日までの日曜は牧場南地区においても実施。)	神居尻地区
(山菜の日)	5月23日(日)	山菜の見分け方や採取のマナー	
(キノコの日)	9月19日(日)	キノコの見分け方や採取のマナー	
森の撮影会 要予約	5月9日(日)	森を散策し野花などを撮影	
みんなで森づくりを 楽しもう 要予約	5月16日(日)	苗木植栽の体験	
	7月10日(土)	下草刈り・鎌研ぎの体験	
	8月21日(土)～22日(日)	炭焼き体験	
	9月12日(日)・10月10日(日)	枝打ち体験	
野鳥観察会	10月10日(日)	木の伐採(ノコギリ)体験	
野鳥観察会	5月22日(土)～23日(日)	野鳥の姿や鳴き声を楽しむ	
登山&高山植物観察会	6月6日(日)	登山をしながら、高山植物を観察	
森の探検隊 要予約	6月26日(土)～27日(日)	親子で森を楽しみ、自然に対する感性を育てる	一番川地区
草木染め体験教室 要予約	7月4日(日)	草木・木皮などを利用して木染め体験	月形地区学習 キャンプ場
森のクッキング教室 要予約	7月25日(日)	野外料理を楽しみながら作り試食	
森の体験キャンプ 要予約	8月8日(日)～9日(月) (小学1～3年生対象)	森林を利用した野外体験活動	月形地区学習 キャンプ場
	8月11日(水)～13日(金) (小学4～6年生対象)		
森のパークゴルフ大会 要予約	9月7日(火)	樹木に囲まれたコースでパークゴルフ	青山ダム地区
早春の道民の森を歩いてみよう	17年3月19日(土)	スキー・かんじきを使い森を歩く	神居尻地区



室内イベント

森の体験工房	5月1日～11月23日までの土曜・日曜・祝日 ※夏休み期間は毎日実施。	夏休み期間の平日→自由体験。 土・日曜・祝日→インストラクターの指導で、枝・葉・実など自然産物を使った創作体験。	神居尻地区 森林学習 センター
夏休み森の体験工房 要予約	7月29日(木)	森の素材でオリジナル作品づくり	月形木工芸館
木工作 要予約	5月1日(土)～11月30日(火)	木材の加工をすることで木のぬくもりを体験	
陶芸 要予約	5月1日～11月30日までの木曜日と祝日 ※夏休み期間は毎日実施。	粘土をつかい陶芸を創作体験	月形陶芸館



ナイトイベント

星の観察会	季節ごとの星座解説と天体観測	神居尻地区 森林学 習セン ター
5月4日(火)、8月12日(木)、10月9日(土)		
スライドショー	森の生物と風景をスライド上映	
8月14日(土)		

- ◆ハーブティー試飲⇒牧場南地区
- ◆サイクリング⇒神居尻地区・青山ダム地区
山あり谷ありの変化に富んだコースでサイクリングが楽しめます。
- ◆トロッコ⇒青山ダム地区
森の中で人カトロッコが楽しめます。

市町村合併

～経過報告～

3 町村長で任意合併協議会の 取扱いを協議

3月26日に新篠津村役場で、3町村長会議が開かれ、当別・月形・新篠津任意合併協議会（以下「協議会」という。）の取扱いについて協議がされました。

新篠津村長から「これまでの合併協議を白紙とし、この協議会を解散したい」との提案がありました。

これに対して、当別町長は、次の説明をしました。

①2月に月形町からの法定合併協議会への参加申入れを受けて、住民説明している最中である。住民説明に2カ月程度の時間がかかることについては、月形町長に理解していただいていると考えている。

②新篠津村長も「自立の道は考えず、合併を検討していく」としている。合併協議の相手方がいる限り、合併によって生ずるお互いの不安を解消するため、法定の合併協議会を設置し、議論していくべきと考えている。

と、協議会の存続を主張しました。

月形町長は、「自立宣言し、合併協議に加わっていない立場にあるので、当別町と新篠津村の判断に委ねるが、協議会の取扱いと今後の合併協議について、月形町住民に説明し協議を行う」としました。

この会議では、協議会の取扱いについて結論が出せず、それぞれの町村で協議した後、4月下旬以降に再協議することとしています。

当別町の市町村合併に関する 基本的な考え方

市町村が地方分権、少子高齢化などに対応するためには、効率的な行政運営が求められ、当別町は、市町村合併が行政改革の有効な手段の一つであると考えています。

当別町は、合併の是非は、法定協議会の中で、新しいまちの構想などを策定し、住民サービスや負担をどのようにするのかを関係町村と対等な立場で議論し、その結果を住民にしっかりと示して、判断していかなければならないと考えています。

これまで進めてきた関係町村との協議の行方が不透明な状況にあります。当別町は、合併特例法に基づいて合併を協議する相手方が存在するうちは、この問題を引き続き検討していきます。

町民への説明

当別町は、3月7日から各町内会の総会に出向き、「市町村合併の検討経緯（月形町の申入れを含む）と今後の基本的な考え方」の説明を行いました。

参加者からは、月形町との合併協議を再開することに理解をいただき、合併の是非を判断するためにも、月形町と新篠津村との3町村による法定合併協議会が設置できるよう、当別町は努力すべきであるとの意見をいただいているところです。

質問、ご意見は、企画課（☎3 3042）へ。

あなたの庭もオープンガーデンに 参加してみませんか？

＊オープンガーデン＊

1927年ころイギリスで始まったとされるオープンガーデンは、個人の庭を一般に公開することです。近年のガーデニングブームですっかり定着し、特に恵庭市の「恵み野地区」は有名です。



＊お庭を公開していただける方を募集します＊

花による美しいまちづくりを進めるために、今年度も「オープンガーデン」を実施します。あなたのお庭を公開して、コミュニケーションの場にしませんか。

＊参加対象 6月～9月の期間中にコミュニケーションの場として、花壇などを公開できる個人または団体。

＊申込方法 5月21日までに電話かFAXでお申し込みください。



＊オープンガーデンマップ＊

オープンガーデンマップに掲載する参加者のお庭の写真が必要です。写真がない場合は、後日撮影します。（マップは役場、ゆとろ、公民館、白樺・西当別コミュニティセンターなどで希望者に配布します。）

▼申込・問合せ まちづくり推進課
（☎3 - 3073/ FAX 5 - 5555）





今、

農業が変わる

当別町の農業は長い歴史の中で、稲作中心として進歩発展を遂げてきました。

しかし、お米の生産は昭和40年代から「米あまり」となり、生産調整が実施されてきましたが、この現状が解消されることなく今日に至っています。

農業者の高齢化が進行し、農業後継者が減少するなど、安全、安心な農産物の安定供給が危ぶまれようとしています。

国の米対策

国は、新たな水田農業システム構築のため、研究会で1年かけて検討した結果、平成14年12月に平成の大改革となる「米政策改革大綱」を決定しました。この中では、生産者が需要に応じた数量だけ生産する方法へ転換し、売れる量を基本として需給バランスのとれた作付けや販売を行うこととしています。遅くとも平成20年には農業者・農業者団体が主役となる取り組みに転換しようと推進しています。

町の農業を守るために

こうした中で、農業関係団体が構成されている、当別町水田農業推進協議会が中心となり「当別町水田農業ビジョン」の策定に取り組んできました。このビジョンには、当別町内の個々の農業経営者の様子を分析し、地域農業の見直しや、農業の将来像を描くことなどが上げられています。これらを行うために、農業者、農業者団体、行政関係者が一丸となり、実際に将来とも継続的に農業経営を営むことのできる農業者を「担い手」と位置づけています。担い手を大別すると①認定農業者（農業経営の改善計画の認定を受けた者）②特定農業団体（将来法人化をめざす団体）・共同作業組織があります。これらを国の新たな制度「産地づくり交付金」を活用して育成して行こうとするものです。

当別町水田農業ビジョンは基本的に農家の皆さんが自らのアイデアで作物生産から販売の将来方向を明確にし、農業関係団体が一体となり本町の基幹産業である農業を将来にわたり持続すること、環境保全・食糧生産基地としてこの広大な農村環境を守り続けていくためのもので今年度からスタートします。

農林課農務係（☎ 3 3 0 9 1）

町長の日記

平成16年4月17日（土）

今日は娘夫婦が太美にマイホームを建て完成したので身内だけでささやかなお祝いをした。

敷地が割り合い広いので記念に植樹をしてやることにした。2メートルぐらいのサクランボの木を二人の孫に一本づつと考えて買って来た。

まだ何もない敷地の片隅に小さな孫達にも手伝わせて一緒に植えた。

我が家では昔から代々子供の数だけいろいろな木があつて、私は小学五、六年頃から毎年祖父にスモモとナシの木の根元に「コヤシ」をまくのを手伝わされた。都会から馬車で田舎の畑にコヤシを運んでいた時代だったが、祖父と二人で肥桶をかついでいる姿を友達に見られたら恥ずかしいと思った。クラスの子にでも見られたらどうしようと考えて大きめの麦わら帽子をおもい切り深くかぶって誰も来ないでほしいと願っていた。

然しだんだん成長してから考えてみると祖父は私を小さい時から特別に仕込もうと思っていられるな事を体験させてくれた事に気づいた。あじ瓜や西瓜のもぎ方、山でコクワの実の探し方やキノコの見分け方等、小さい時に何でも教えてくれたのはとても有難い事だった。

この孫達は毎年宝石のようなサクランボをついばんで、やがて美しい乙女になるだろうか。生れた時から各地を転々として狭い公宅住いだつたのが、初めて自分の部屋を与えられてうれしくてたまらないらしく、まだ殺風景な部屋なのに、みんなに早く見てほしいと大声で案内していた。

当別町では昨年は41戸の住宅が建つたが、新築した家庭はそれぞれに楽しい夢がいっぱいいると思う。

今年はずっともつと沢山マイホームが建ってほしい。

町長 泉 亨 俊 考